

ひかりのこ

8,9月園便り

聖ミエル幼稚園
2017年8月21日

月主題: ゆったりと・やってみる

『子どもと共に』

保護者の皆様、子どもたちは、夏休みの間、どのように生活していましたか。お家のお手伝いをしたり、ご家族でお出かけをしたり、たくさん経験ができたのではないのでしょうか。

幼稚園のお預かりに来ていた子どもたちは、自分のお支度をさっとやり終え、ホールでのびのび遊んだり、お外で思いっきり水遊びをしたりして楽しみました。どの子も日に日にたくましく自分のことができるようになった気がします。

今回は、私の経験から、子育てについてお話したいと思います。

私は、5人兄弟姉妹の2番目に生まれました。父は、紳士服屋。母は、結婚前までは、養護施設の保母として働き、結婚後は店の経理を手伝っていました。両親は敬虔なクリスチャンで、本当は教師になりたかった父は、私たち子どもと本当によく遊んでくれました。

家はほろほろの一軒家で、1階のビニールカーペットに、父がケンケンバや相撲の土俵をマジックで書いてくれ、父対子ども5人でよく相撲を取ったものです。小さな庭には、鉄製のジャングルジムや鉄棒があり、店でいらなくなった看板を落書き黒板のようにして、家でも外でものびのび遊べる環境を作ってくれていました。我が家はまさに、「子どもの家」でした。

母は、さすが昔保母だったこともあり、子どもたちにお手伝いをしっかりさ、せましました。当番表を作り、お茶碗洗い、お掃除、風呂焚きもありました。幼稚園の子どもも、できることは、家族の一員として当たり前のようにやっています。遊びに行ったら先のお友達が、お母さんを召使の様に扱っているのを見て、びっくりしたこともあります。我が家では、そんなことは考えられませんでした。

そんなことよくな家庭で育ったこともあり、私自身が母親になってからも、子どもとよく遊び、子どもと夫にたくさん家事を手伝ってもらうのが当たり前だと思って子育てをしてきました。

先日結婚した長男は、お嫁さんと共に家事を楽しんでいるようです。二人とも働いていますので、朝のお弁当作りは息子が、夕飯は、定時で帰れるお嫁さんが作っているそうです。この間息子が、「お母さん、俺たち子どもころ、家のことたくさん手伝わせてくれて、本当に良かったと思うよ。今、全然困らないよ。」と伝えてくれました。「家事ができる、女子力が高い。」というより、「家族の一員」として家族みんなで共に生活を作ることができることに「良かった」と言っているような気がします。

3歳になったら、子どもは、結構何でもできます。「子どもだから」「小さいから」と言わずに、いろいろ子どもたちにやらせてあげてください。

一緒にご飯を作って「ありがとう、助かったよ。さあ、みんなでご飯を食べましょう。」と言われたら、子どもはどんなにうれしいでしょう。どんなにご飯がおいしいことでしょうか。子どもたちは大好きなお母さんの役に立ちたい、と思っています。遊びもお家の仕事も、一緒にやることで、子どもたちの心も生きる力も育ちます。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「焼肉事件」

人は色々なきっかけでクリスチャンになります。私の場合、大学の先生が「本当のキリスト教というものは、教会の中で、良いことも悪いことも経験しないと分らない」と言ったのです。「本当の」というのが気になって、ある教会に通いました。ところが、半年近く出席しても誰も私に話しかけないので、勇気を出して牧師宅を訪ねました。しかし、名前すら聞かれずに終わりました。

私は教会にうんざりして関心を無くしたのですが、そんな時、大学の近くに聖公会の教会が新設されました。ある日、友人に無理やり連れられて行くと、牧師は初めて会った私に焼肉を食べさせ、歓迎してくれました。半年通った教会でも焼肉が食べられない教会と、初対面の焼肉が出来る教会とでは勝負はついています。私と教会との関係は、鉄板から立ち上る煙の中に始まったのです。この後、紆余曲折なものとんでもない信仰生活が続きましたが、自分が聖職になるとは全く考えませんでした。でも人生はドラマだから機があります。

イエス様は私たちのよき伴侶です。少し客観的に見ると、人生とは、みなハラハラドキドキのドラマのようなもの。原作は神様、演じるのは私たちです。イエス様は確かな演出者として、私たちの個性を引き出して下さる方。どうせドラマの主役を演じるのなら、最後の幕が下りるまで、大根役者ではなく大物俳優になりたい。ちなみに私の卒論のテーマは『ガリバー旅行記』を書いたジョナサン・スワフトで、彼は作家であると同時に英国聖公会の司祭でした。突拍子もない聖職者で、声高に人の悪口を言ったり、政治にのめり込んだり、愛人騒動を起こしたりします（しかし、その説教は感動的!）。ついに病いに倒れ、臨終の間に「俺はアホだ!」と口走ったという逸話があります。スワフトや私のような者を聖職者にする神様の心と深さ、寛容さは驚くべきものです。だから私も人には寛容でありたいと願っています。

チャブレン 司祭 下澤 昌